

Masters World Cup 2024 Auckland

トレーナー活動報告書



期間；2024年11月7日（木）～16日（土）

会場；オークランド（ニュージーランド）

ナショナルホッケーセンター

報告者；河西 紀秀

フィジオ；河西 紀秀・柘岡 智之・雨宮 英巨

関係者各位

師走の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は格別のご厚情を賜り、心から感謝しております。

WMH ワールドカップにフィジオとして日本代表チームに帯同して参りましたので、トレーナー活動報告をさせていただきます。

今年に入り、度重なる選手選考を経て、日本選手団としては3チーム、50名（50+、60+、60IMC）を編成し、本大会に挑みました。

フィジオは3名派遣され、各チームへの対応も余裕がある中で、トレーナー活動をスタートさせることが出来ました。大会期間を通して、フィジオが対応した件数は延べ217件。各世代を問わず、主な対応部位としては腰部痛や大腿周囲筋の筋疲労や軟部組織損傷を疑う症状への対応が多かった。処置内容ではテーピングやパートナーストレッチなどが多くを占めていた。又、連戦が強いられる中、リカバリーをフィジオ主導により実践し、良好なコンディション維持が図れるように努めた。

現地では、日本選手団専用の仮設テントを設置して頂いたが、メインピッチ横に設けられていた。各試合会場への導線やW-UPエリアからも少し距離があり、有効利用がしづらい状況であった。設置場所の事前情報が詳細に確認出来なかったことは反省点である。

他にも、現地スタッフによるメディカル班も各会場に配置され、有事の際にも対応できる体制が整っていました。

今大会を通して、日本人選手の現地医療機関での診察及び処置も数件認めましたが、特別大きな外傷や怪我には至らず、大会を無事に終え帰国することができ安堵しています。

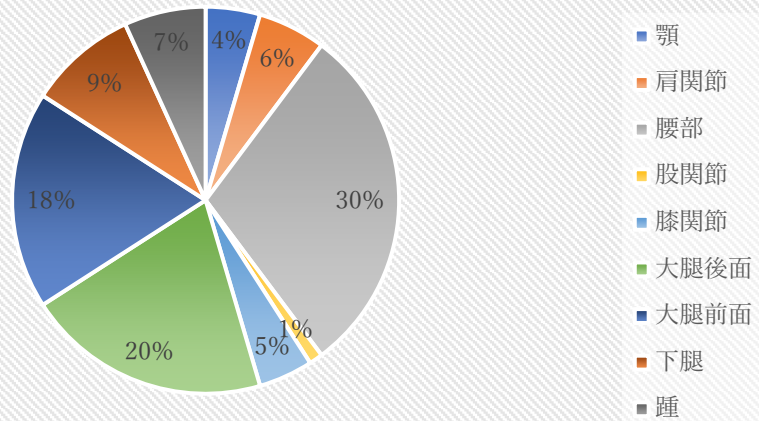
今回も経験豊かな2人のフィジオは2022年のWMH東京大会より、チームを組み、スムーズな連携が図れたことで、日本代表チームのサポートが可能であったと強く感じる。

最後に大会前からお世話になった日本ホッケー協会（マスターズ部会）をはじめ、多くの大会関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

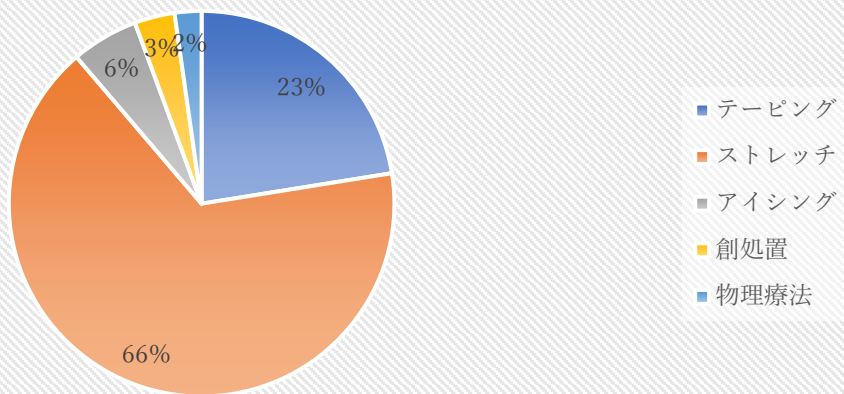
敬具

令和6年11月29日
JASPO-AT 河西紀秀

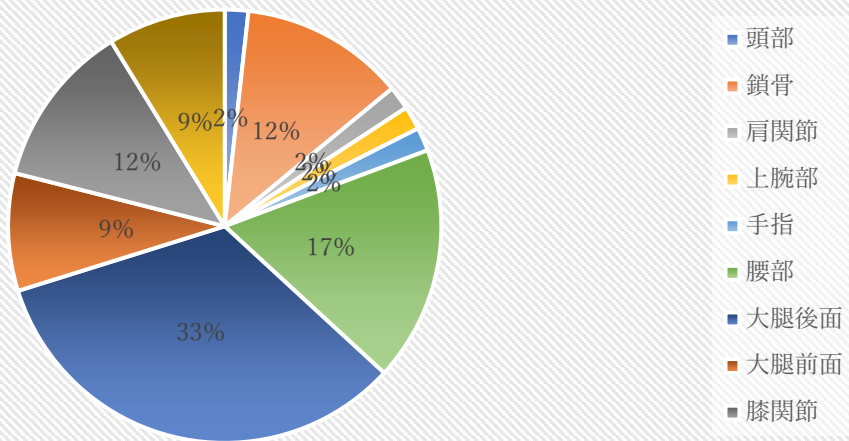
50+ 部位別,対応件数 (88件) の割合



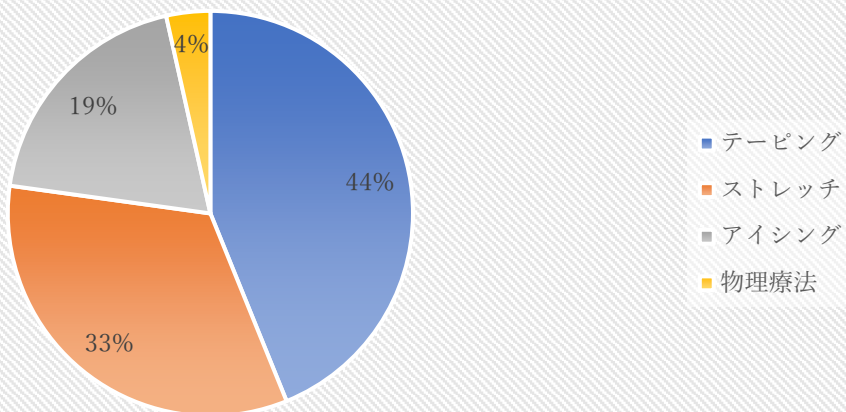
50+ 処置内容



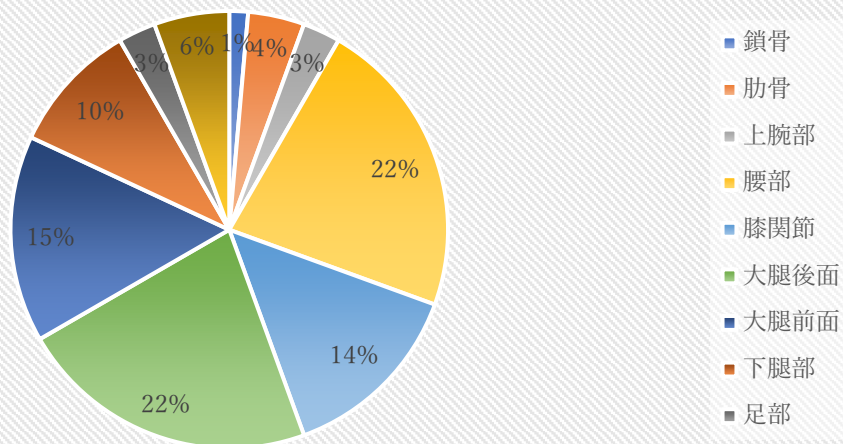
60+ 部位別,対応件数 (57件) の割合



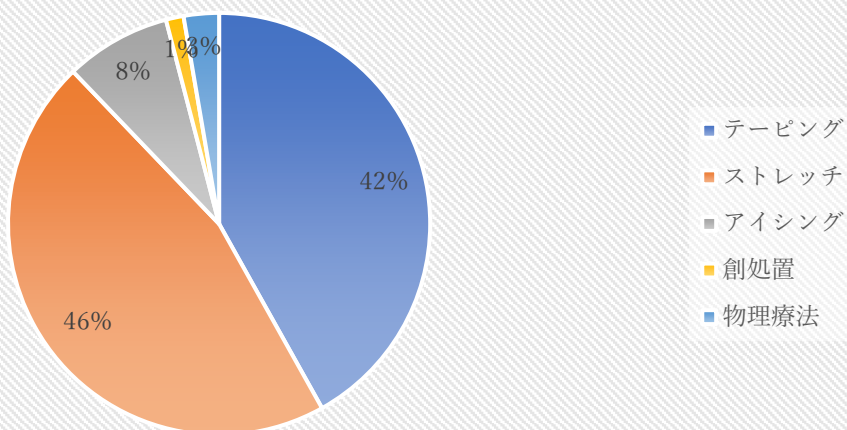
60+ 処置内容



60IMC 部位別,対応件数 (72件) の割合



60IMC 処置内容



活動風景



【ウォーミングアップ】



【リカバリー】



【テーピング】



【ホテル内でのケア】



【マッサージ】



【アイシング】



【クーリングダウン】



【物理療法】